

## 令和3年度第7回人権教育学級

日 時： 令和4年 1月13日（木）10:00～11:30

場 所： 別府市役所5F大会議室

テーマ： 「子どもと人権」

— 子どもとの暮らしの中に見つけた「小さなこと」「小さな幸せ」—

講 師： 児童養護施設「光の園」

施設長 松永 忠 さん

### 松永 忠さんのプロフィール

1984年4月～2008年

・児童養護施設 光の園・聖ヨゼフ寮 児童指導員

2008年4月～現在

・児童養護施設 光の園 施設長  
・大分県警フレンドリーサポートセンター  
アドバイザー

2017年4月～現在

・大分県児童養護施設協議会 会長  
・大分県社会福祉審議会 児童福祉専門分科  
会部会長



<講師の松永 忠さん>

主著・研究

- ・世界の児童と母性／2007—4（日常の宝 児童養護施設のケア）
- ・やさしくわかる社会的養護6（児童相談所・関係機関や地域との連携・協働（14章））
- ・子どもの虹情報研修センター紀要No.13（2015）（回復と育ちを支える生活）
- ・『Deo Gratias』子どもとの暮らしの中に見つけた「小さなこと」「小さな幸せ」2017

### 講演内容

1 はじめに 光の園で育った子どもたち

いろいろな事情で光の園が預かるようになったたくさんの子どもの成長をたどる。

◇一週間前の写真

- ・成人式があり、「ただいまー」と言って帰ってきた子どもたち

◇お正月の時に帰ってきた子どもたちの写真

- ・他県や地元で働いている子どもたち
- ・社会福祉士を目指し、大学で学んでいる子ども

私も22歳大学4年生の時、児童養護施設と出会った。それから、子どもたちといっしょに暮らし始めて、最初はお兄ちゃん代わり、そして、だんだんお父さん代わりとして、これからはおじいちゃん代わりをするようになるだろうと思っている。

現在、光の園では、41名の子どもたちを預かっている。

#### ◇尾島春夫さんと子どもたちが一緒に写った写真

尾島さんも光の園との出会いでボランティアをしようと考えたそうである。ずっと以前に光の園を応援してくれていたアーン少佐の映画を見て、尾島さんは、「将来、仕事を終えたらボランティアがしたい。」と思ったそうで、よく光の園に遊びに来てくれる。いっしょに歩いたり鶴見岳に登ったりしている。

#### ◇子どもの成長を追った写真（複数枚）

- ・2012年、2013年、2014年、2015年、2016年、2017年、2019年、2020年、2021年・・・2013年は幼かった子どもたちも現在中学生になっている。**子どもたちは少しずつ成長していく**

私も時々子育ての専門家と言われるが、実は、失敗の連続である。「こう言えばよかったなあ、ああすればよかった。」と思うことがよくある。子どもたちを大事にして、失敗を繰り返しながら、やがて子どもたちが立派な社会人になってほしいと願っている。

- ・光の園の子どもたちの紹介

Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさん・・・など、個性豊かに育っていく子どもたち。家庭的な環境の中で個性豊かな子どもたちに寄り添っている。子どもたちの成長は、社会の中で子どもたちが証明してくれると思う。

#### ◇児童養護施設のこと

- ・親元を離れて、児童相談所や県知事の依頼を経て子どもたちといっしょに暮らし始める。子どもたちに原因がある訳ではない。幼い子が家庭の事情で親元を離れて暮らさなければならなくなったということ。幼い子どもだけではなく、高校生になって預かる場合もある。
- ・現在、大分県ではそういう子どもたちが約500人いて、その中の約350人が養護施設で暮らし、約150人が里親のもとで暮らしている。

#### ◇当たり前で発達していく環境を失った経験を持っている子どもたち（原因は自分にはない）入所の年齢が上がれば上がるほどつらい経験を長く持つ

- ・意識障害・乖離現象、急に不機嫌になったり場にそぐわない行動をとったり、フラッシュバック、覚醒水準の異常、多動、睡眠障害、意欲の低下、・・・こんな症状ができる場合がある。
- ・こういう症状は、心理の先生や精神科医などに支えてもらわないといけないが、私が一番感じているのは、**子どもたちが元気に育っていく環境は、家庭にあるつまり日常の中にある**ということである。

## 2 子どもの暮らしの中に見つけた「大切なこと」

### ◇私のことから

- ・「通知表」・「○ばかりの通知表」を手にして満面の笑みを浮かべる小学校一年生の時のS君とS君の言葉に機転を利かして対応した保育士さんの愛情とやさしさに心が和んだ思い出
- ・自分自身の小1の時の通知表のこと
- ・たくさん子どもたちと出会い、自分の人生の歩みの中で感じていること⇒どんな子が自分の手に与えられた力を伸ばしながら幸福そうに生きていくかという、私がたどり着いた答えは、**素直な子**である。  
勉強できる子、スポーツが優れていてよくできる子も素晴らしいけれど、**その子らしく素直に育った子が良く成長している**と感じる。

### (1) 現代の子育て・教育の問題

- ・核家族化  
家族の単位が小さくなって、知識は得られるが知恵が伝わらない。たくさん情報はあるけれど、知恵が伝わりにくくなっている。
- ・強迫的  
(100点を目指す教育、good enough がわからない)  
「このあたりでいいよ、よくなっているなあ、大したもんだ」そういった部分が大事。
- ・不安がつよく自信がない  
子どもたちは、70点とっても「あーあ、70点だった。」とがっかりするが、私は70点とったら「大したもんだ。」と、言って、ほめるようにしている。  
子どもたちは、いつも100点を目指す勉強をしている。100点じゃなくていい。子どもたちがその子らしく素直に育っていく、その子のもっている力が、0.1ずつ伸びていく。それでいいと思う。
- ・並列処理がうまくできない  
いっしょに話をする、料理をする これが一つの短時間の社会になっているが、このことを楽しめない大人が増えている・
- ・子どもと波長を合わせることを楽しめない大人が増えている。
- ・日本の子育て  
昔、ヨーロッパからやってきた宣教師ルイス・フロイスは、ローマに送った手紙に「日本の子どもたちは、幸福そうだ。いつも兄や姉におんぶされている。赤ちゃんたちは、あまり泣かない。これほど子どもたちを大事にする民族に会ったことがない。」と書いている。また、明治時代に大森貝塚を発見したエドワード・モースさんも書物の中で、「日本のお母さんたちは、子どもにかんしゃくを起こさない。日本人は、子どもをおんぶし抱っこし、忍耐強く子どもと関わる民族だった。」と書いている。

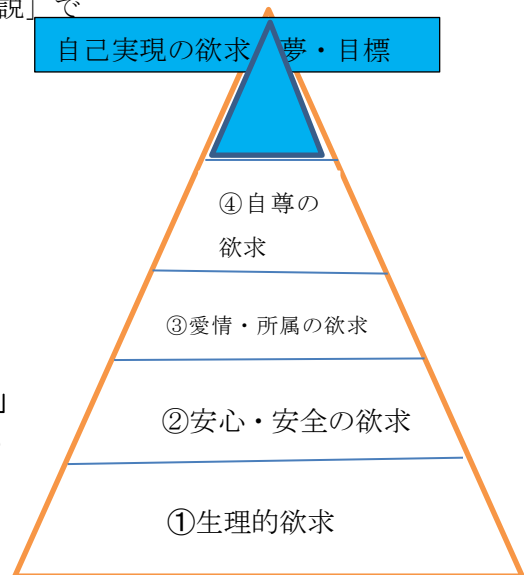
## (2) 直列処理世界と並列処理世界

- ・直列処理、矢のように進む時間  
仕事、学校、テレビ、コンビニの店員、集団行動
  - ・並列処理、浮いている時間  
家庭、自然、田舎の小さな店、友だちとの会話、自由な一人旅
- 愛着形成には並列処理が必要かつ有効

## (3) 子どもを見つめる視点

これは、マズローという心理学者が「動機の階層説」で証明したもの

- ④「勉強しよう」(自尊の欲求への声かけ)
- ③「あなたのこと大切に思っているよ」  
「私のクラス(学級)の大事な生徒だよ」  
(所属・愛情への欲求への声かけ)
- ②「元気に学校に来てくれて嬉しい」  
「おかえり!元気に帰ってきてくれてうれしい」  
(安心・安全への欲求への声かけ)
- ①「ごはんをいっぱい食べてね」  
(生理的な欲求への声かけ)



④の声かけよりも③<②<①の方が 欠乏欲求①~④(誰かに満たされないと満足できない欲求)  
子育て・教育には大切

皆さんは、これまでとてもすてきなあ、あるいはカッコいいなあと思った先生たちに出会っていると思いますが、その先生たちに共通しているのが、④の自尊の欲求での声かけではなく、①の段階、②の段階の声掛けをしてくれる先生です。先生だから④の声掛けをすることも大事ですが、それ以外の声掛けを大事にして子どもたちを見ている先生は、子どもたちから好かれます。

例えば、「今日元気がないけどどうしたの」「ごはんをちゃんと食べてきたか」「自分がいるから大丈夫」「あなたのことしっかり見ているからね」などの声かけができる先生が子どもたちから好かれるのです。

## 「安心できる先生」

○「安心できる先生ってどんな先生？」と尋ねると、ほとんどの子どもが、二つ即答する。「やさしい先生」「いつも笑顔の先生」そして、ゆっくりと考えながら出てきたのが、「話を聞いてくれる先生」「自分の気持ちを周りに言ってくれる先生」「悪い時には怒らずにちゃんと言ってくれる先生」「ほめてくれる先生」などなど。子どもの生きる世界その半分は保育園や幼稚園、学校の世界。子どもが慕う先生は、子どもの現状を評価せず、小さな成長を見つけ励ますという共通の特長をもち、「あー、これ分かってよかったなあ。」と理解する喜びを共感する先生とを感じる。良き先生と出会った子どもは幸せ者である。

### (4) いのち

(子宮の3つの要素)

①感染予防  
(良き・・・)

②保温  
(良質な関わり)

③栄養  
(良質で安心のある・・・)

子どもたちが最も大事にされている場所は、お母さんの子宮。お母さんの子宮の中の3つの要素が感染予防と保温、そして、へその緒を通して栄養がちゃんと行くようにしている。子どもの人権、子どもの命を育むうえでこの3つの要素がとても大事である。栄養は、子どもたちに準備する食事で、できるだけ農薬の少ない健康に良いものを準備しよう。保温は年齢に合わせた関わり、0才の時は、密着した関わりが必要、でも年齢が過ぎて少しずつ距離感をとっていく。病気をした時には1才や2才の時のように密着して関わってあげる。子どもが泣いている時、友だちとトラブルって悲しんでいる時、学校の先生に怒られて悲しんでいる時には、お母さんやお父さんが密着して「大丈夫だよ。」と言ってあげる。感染予防は、適度な環境づくりなので、洗濯をしたり掃除をしたりというのは子どもの人権を守る上でとても大切な作業になる。また、適当に汚れていることも大事。菌に強くなるために、免疫力をつけなければいけない。清潔もやりすぎると問題があるということである。

(4 S)

S i m p l e

S m a l l

S l o w

S i l e n t

4つのSが大事。子どもは、とってもシンプルな育ち方をして一気に成長しない。つまり、スモール、ちょっとずつ子どもたちは成長していく。そして、ゆっくり成長していく。急には成長しない。そして、サイレント、これは静かにということだが、いつの間にか子どもは成長している。

(5) 「専門家」であり、「一人の人間」

<b>3P</b>	<b>P</b> rofessional	<b>P</b> ersonal	<b>P</b> rivate
・ 専門家としてなすべきことをする		<b>私</b>	
・ 仕事や近所の人との中で相手に示す、一人の		<b>私</b>	
・ 仕事から一線を引いた 自分の世界での		<b>私</b>	

すべてをさらけ出すのではなく 大切なもの・好きなもの・特異なものでの関わり

大人は、ある専門家でもあり、一人の人間である。私は、児童養護施設の施設長という一つの専門職として仕事をしているが、子どもとの関わりの中で大事なものが真ん中の私。プロフェッショナルな私、パーソナルな私、そして、プライベートな私という3つの「私」があるが、子どもと関わる時には仕事を離れ、プライベートな私を横において、私自身がもつ人格性や自分の持つ感性で子どもと関わっていく。仕事としているプロフェッショナルな部分は少し横において、パーソナルな自分、私らしい自分で子どもに関わっていくことが大事である。



講師の話を熱心に聞く  
受講者

(6) 感性を磨く

- ・ 子どもとの関わり  
白か黒か YESかNOか判断できないことが多い。(どうしたらよいか・こたえたらよいか)
- ・ かつこいい人 素敵なお人 心のきれいな人 心の温かい人 (子どもの視点で、見た目の容姿と関係なく)
- ・ **品格のある人 深みのある人 温かい人** (大人の視点で)

パーソナルな自分を育てていくというのはどういうことか。それは、大人として品格のある深みのある温かい人になろうと努力すること。子どもとの関わりは、白か黒かイエスかノーか判断ができないことがすごく多い。子どもは、自分を大事にする人、大事にしてくれる人がかっこいい、美しい、きれいと思う。大人がそういう人を目指していくことが子どもの良い育ちにつながる。

### 「小さな声で叱る」

- 子どもたちはよくいたずらをする。時々、叱らないといけない。叱る時は、小さな声で叱る、座って叱ることが大事。子どもは大人に叱られることをするし、失敗は子どもの特権の一つである。そして、許される経験を通して子どもの心は成長していく。悪いことに対しては曖昧にせず厳しく叱る必要があるが、ただ感情的に激しく声を張り上げるのではない。もちろん体罰はいけない。力でコントロールするのではなく願いを落ち着いて伝える、つまり、子どもの気づきと納得によって心の変化を促すことが大事である。「厳しいけれど怖くない」「やさしいけれど甘くない」指導が大事である。

叱る時の子どもとの距離は、30cm～50cmが良い。(ある小児科の医師の話)  
生まれてきた子どもは、2時間ほど目が見える。その時に、自分を大事にしてくれる人はだれかと「じいっ」と母親の顔を探す。そして、目が見えなくなり、10日ほど経つと、また、うっすらと見始めるらしい。10日ほど経った時に見え始めた焦点が30cmから50cmの間にあり、愛情が伝わる距離だという。すなわち、子どもを叱る、子どもをほめるという時は、30cm～50cmの距離で、自分が普段使っている声と違う声で「頑張ったなあ」「もうやったらいいんよ」という風に伝えると良い。

### 「待つこと」

- 待つことで2つの大事なこと・・・一つ目は、「ちょっと待ってな」と言って待たせたことは必ず実行する。二つ目は、待つ時間を具体的に伝える。例えば、「あの時計の針が3のところまで」「この料理が終わってから」というように。  
待てば、必ず良いことがある、待てば必ず聞いてもらえるというように、待つことに希望があることを教える。  
子どもは、みんな違った個性を持っている。その子らしく成長できるよう関わりを工夫してほしい。

### 「優しいU子ちゃん」

- 小学2年生のK子ちゃんの失敗に優しく声をかける小学4年生のU子ちゃん・・・優しいという字は、人を表す「ニンベン」に「憂う」と書く。自分に苦しいことがあった時、その憂いのかたわらに立ち続ける、そのことによって自分自身が優しくなれる。そして、隣人が憂いをもっている時は、その人のかたわらに静かに佇んで手を握ってあげる、そんな姿が優しいという文字である。U子ちゃんの優しさに触れ、30年ほど前のシスターの言葉「愛と優しさは、人と人の間で循環する」を思い出した。

## 「大丈夫！」の心

○ 子育てをするにあたって大事なことはあせらないこと。子育ては、思い通りにならないことが多く、悩みと忍耐の連続である。しかし、2歳過ぎまで歩けなかったY子の懸命に走る姿は、子どもの様子を慌てずゆったり見続けていれば、大丈夫ということを見せてくれた。Y子が徒競走で1位になる姿は想像できなかった。奇跡に見えた。

子育てというものはとても難しいが、喜びでもある。今起こっている子どもたちの現象に惑わされることなく、今起こっているところからちょっとだけ伸びていく、その小さな芽を大事にして子どもたちをほめながら見守っていく。

子育てしている皆さんには子どもたちを大事にして、共に幸せになるように育ててほしいと願っている。

### <質疑・応答>

○質問 ■回答

○ 子どもが二人いて、つい上の子どもを厳しく叱ってしまう。その子を叱らずに思いを伝えるにはどうしたらよいでしょうか。

■ 私たちも同じような悩みを抱えています。4人の子どもの預かっているが、いろいろな個性の子どもがいる。私は子どもと関わる時、「絶対あの子を大事にする」と自分に言い聞かせている。お母さんも上のお子さんを「絶対大事にする。」と自分に言い聞かせてほしい。

叱る場面については、「小さな声で叱る」「座って叱る」ことが大事。そして、子どもを座らせる時は、正面には座らせない。少し斜め横ぐらいで話をするとうい。座らせるときの角度は非常に大事で、子どもが赤ちゃんの時におっぱいを与えた角度の感覚で子どもに思いを伝えると良い。

また、子どもは、ゆっくりと少しずつ成長する。一気に成長してほしいと願うのが大人だが、「子どもは、すぐには変わらないけど、少しずつ成長しているんだなあ。」という気持ちで子どもと関わるよう努力してほしい。

○ 高校生を持つ親です。子どもについて勉強するように言ってしまうがちなのですが、これから大学進学を見据えて、どのように勉強の必要性や大切さを伝えたらよいでしょうか。

■ 私も同じような思いを持っているが、これには答えはないと思う。お母さんの純粋な思いをさりげなく普段から伝えることが大事。「仕事ってどう?」「こういう資格をとったらどう?」「大学はどこを考えているの?」など。言いたい思いは言っている。ただ、そういう言葉は半分に減らす。半分に減らしてあと何をするか、です。子どもの存在・命を守ることの中に栄養という要素があります。子どもが最も信頼するのは何かというとお母さんのおっぱい、つまり栄養です。食事の準備をすると香りがある。例えば、カレーの香り。そういう香りの中で「頑張ってな。」と言って食事を出す。高校生ぐらいになるとだんだん人格性が育ってくるし、反抗期です。保温、つまり関わりの部分を半分に減らす。そして、感染予防という環境づくりという面からお花をおいてあげたりする。そのことが、「夢に向かってしっかり生きてほしい」というお母さんの願いが、言葉と違ったもので伝わるのではないかと思う。



